

「ささえ」

2019 年 4 月発行 情報誌 第 67 号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所: 福岡県田川市伊田 4395 (福岡県立大学内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyogunet@sage.ocn.ne.jp

新 URL <http://npofukusiyogu.sakura.ne.jp>

情報誌「ささえ」は年 4 回(1 月・4 月・7 月・10 月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神 1 丁目 13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます。

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします。

NPO福祉用具ネットは『抱え上げない介護技術』を推進します。写真のような介護はやめましょう。



洗髪シャワー



NPO福祉用具ネット開発品第 1 号

【製造元】

(株)福祉SDグループ

平成 27 年より、充電式も発売開始。【発売元】キヨタ(株)

**これまで、NPO福祉用具ネットが関わった
主な開発協力品** (現在は製造中止となっています。)



アルファブラ
ソラ クッション

SORA



尿吸引ロボ「ヒューマニー」



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい・・・」

調整可能な機能を持ったものを整備して対応しています。

しかし、調整可能な用具は、複雑な構造になり価格が高くなる傾向にあります。入居者数に合わせて購入することは、運営資金的にも負担が大きくなり手が出せず、職員が魔改造（？）で不安定で危険性をはらんだ改造を行うか、入居者に我慢をしてもらうことになりかねません。

このように、在宅向け用具と病院・施設向け用具とは性格（求める仕様）が異なります。

病院・施設特有のニーズを拾い出せ！

この点に関心をもったのが福岡県です。

「施設等は、一体どんな用具を必要としているのか」

著名な複数のマーケティング調査会社が発行する市場報告書で発表されているのは、レンタル用品の動向であって、施設向け用具の見通しなどは記載されていない。

そこで、福岡県は県内施設に協力してもらい、独自に答えを求めることにしました。これが「病院・施設のニーズ調査」です。

多くの施設から協力を得られた

福岡県は、平成 29 年度に、福祉施設等の福祉機器に関する現場ニーズの調査を目的として、「福岡県介護実習・普及センター」と連携し、県内約 1,500 の介護福祉施設や介護事業所を対象に福祉機器に関するアンケート調査を実施しました。

福祉施設から多くの回答を頂き、これを分類して件数の多い順に並べてみますと、

- ①車いす関連
- ②排泄関連
- ③移乗・移動関連
- ④入浴関連
- ⑤ベッド及び周辺関連
- ⑥食事関連
- ⑦コミュニケーション関連
- ⑧認知症関連
- ⑨衣類関連
- ⑩生活支援用品関連

でありました。

やはり、生活を維持するうえで基本的な用具が上位を占めています。特に車いす関連は圧倒的な件数の多さでした。

回答には、更に具体的な要望が書かれていますが、ここで気になるのは、その要望を満たすものは、既にカタログに掲載されているものが多く、これら既存の用具と要望のどこが異なるのか確かめる必要が出てきました。そこで、回答者を訪問し、直接ヒアリングすることで要望の実像を探ることにしました。

「あったらいいな」の用具は、既に存在した

ヒアリングでは回答者は真剣なまなざしで、自分の

欲しい用具を訴えますが、事前に準備したカタログを見せると驚きの顔に変わります。

「すでに有るのですね・・・」

と残念な顔をして納得します。しかし、しばらくすると、

「私の欲しいものとは少し違うんです・・・。現場を見てもらうと解かってもらえると思うのですが。」

そこで現場までついて行き、見せてもらいますと、“なるほど、そういうことか。そういうことが言いたかったのか。”

とこちら側が納得することになります。

カタログ品の構造そのままでは、確かに使えないことが理解できます。

ニーズ調査をするとき、言葉や文字だけでは本当のニーズを把握できないことを改めて感じました。

調査を進めるときには、まずは現場が第一であること、回答者の些細な表現も聞き逃さないことが重要ですよ。

回答者は、「何とか解決してほしい！」との要望は持っていますが、具体的な解決手段まで考えているわけではありません。そのことを思い測り、こちらが考える解決構造を図に書いて見せながらヒアリングを進めると、回答者は次々と要望を膨らませ、本当に欲しいものが浮き彫りにされてきます。

しかし、気をつけなければならない点があります。こんな経験をしました。

同じ要望（日本語的に）を別の施設でヒアリングすると、他の施設で納得し喜んでもらった内容が、「それじゃだめだ。使えない。」と否定されます。

その否定の根拠になっていたのが、施設ごとで違う「仕事の流儀」だったのです。

施設ごとに、経営方針の違いや、使っている設備、備品が異なり、また入居者の要介護度にも違いがあり、これらに合わせて仕事の進め方が異なっているようです。

したがって、ヒアリングの際は、こちらの考えを押し付けることは適切ではありませんでした。

「仕事の流儀」の差が開発を危（あや）める

流儀の差は、施設ごとで少しずつ異なるので、ある施設から出た要望に基づいて開発しても、他の施設では使ってもらえないのです。

つまり、1つの施設の要望は、その施設やその職員だけに通じるもので、その要望は単なる「希望（ウォンツ）」であって、みんなに通用する「真のニーズ」とは言えません。1台は買ってもらえても、みんなに買ってもらえることは有りません。そしてその開発は、流儀に危められ、注目されることはないでしょう。

近年、要望の多様化が言われております。多様化に

応えるのは、商品を提供するメーカーの責務かもしれませんが、もともと生産数の少ない福祉機器業界では、多様化に応えるのは、大変なことです。

福祉機器のニーズ調査では、この点が大きなポイントを占めそうです。

要望とニーズはどのように違うか

では、要望が真の（本質的な）ニーズとなるにはどのような点を考えるべきでしょうか。

例えば「走行時に振動を吸収する車いすが欲しい」と考えている施設がありました。しかし、ショックアブソーバー付の車イスは、70年前に商品化されていました。じっくり話を聞いてみると、走行時に、着座している利用者の頭がフラつき、気分を悪くするという。だから振動しないようにしてほしいという。そこで、再現してもらいました。そこから判ることは、床の「うねり」が原因でした。（次号で実例を交えて紹介します。）

最近、思うこと

～患者家族の声～

患者家族 Fより

春。暖かい日差し、可愛い花たちが咲きそろう小鳥のさえずりに生きる力の尊さを感じる季節。

昨年のお花見の頃、両親はそろって同じ施設で生活し、桜の木の下でお花見ができた。私はとても感慨深い思いに浸ることができた。両親ともに病状が悪い頃、私はこうしてお花見ができることや夫婦が揃ってその場に居られることをひたすら願って看病を頑張ってきた。だから、お花見ができたその日はとても嬉しかったことを覚えている。

しかし、こうした嬉しいことはそう長くは続かなかった。お花見から一カ月もしない頃から父親の入退院が始まり、とうとう母と一緒に過ごせていた園を退園することになった。そして、急性期の病院から療養型の病院へ移り体調を整えなおして、元いた園に再入所を希望したものの、医療体制が整わないということで断られてしまった。一方で療養型の病院からは積極的治療が施せない事から退院計画を伝えられ、どうしたものかと途方に暮れた。

急性期の病院、療養型の病院、老人施設それぞれの言い分があった。まるで、父はピンポン玉のようにあっちこちの機関からラケットではじき返されているようなそんな感覚になった。



●急性期の病院のDr「すべては痰の管理にかかっている。元いた施設での生活は難しいと思うので療養型の病院を勧める。」

●療養型の病院のDr「急性期の病院は、体よく、父と縁を切りたかっただけ。療養型を勧めるのなら自病院の療養床で治療継続をすればいいことだ！先方の言っていることは詭弁だ！！」

●元いた施設「まさかこんなに早く退院になるとは思わなかったので、次を入所させた。医療体制も整っていないので自分のところでは引き受けられない。」

聞いてはいたものの高齢者の介護現場では、こういったことが本当に起きているのかと、自分の身に降りかかって初めて認識できた。私の身に降りかかるくらいだから、毎日あの人この人の身に降りかかっていることなんだろうなと思うと切なくなる。

療養型の病院のDrの言葉はとてもきつく、思わず反論したかったがそこで反論して気まずい空気が流れると、翌日から父の面会時に私自身が苦しくなり病んでしまいそうだったのでぐっとこらえた。患者やその家族が何も言わない状況というのは、言いたいけれどあえて言わないという自己防衛の手段でもあるんだと認識した。おかげで翌日から笑顔で父と面会できた。

変な話だ。患者やその家族が自分を守るために反論できないような雰囲気や介護や看護の現場には、脈々と流れている。「なんでも遠慮なくいってくださいね。」と言われても、遠慮ではなく、言ってしまうと自分が壊れてしまいそうになるから言わないことも少なくないのだと思う。私は日頃から伝えたいことを冷静に伝えようと努力をしている。そんな私でも父がピンポン玉のように思えた時には口を閉じてしまった。

患者やその家族が何も言わず、抗うことなく「はい」と返事をしたその時、相手は何を感じるのだろうか。それぞれの立場があるから伝えなくてはならない時は当然あることだろう。責任追及に対しての策を練るだけでなく、医療や介護現場にはもっと「より良い人間関係を構築するためのコミュニケーションスキル」の一つ「アサーション」スキルを意識してほしい。

両親の介護を始めて2年が過ぎた今、この2年間で私がつらかったことは、コミュニケーションがうまく取れなかったことだったように思う。看護、介護技術にばらつきがあるのは、現場を見てよくわかったし、医療、介護現場の様々な問題がクリアできていない現状では、直接的に病院や園に求めても仕方ないと思う。それよりもむしろ、それぞれの立ち位置でわかり合おうとするコミュニケーション

がとれるようになって欲しい。そうならば、ベクトルは問題解決に向かうはず。患者家族はそれだけでも心のざわつきが穏やかになる。

最近の両親の姿をみていると、富に一日一日がとても貴重に感じ、私は「明日も会えますように」と、お祈りして眠りにについている。

かけがえのない命です。

大学で初めての 体験会を開催！

NPO福祉用具ネット理事
(福岡ひとにやさしい介助を考える会)
海尾 美年子

私はキネステティクス®の良さを皆さんにお伝えする活動を始めて10年近くになります。キネステティクス®ベーシックコースのトレーナー資格を得ると同時に、同じく福岡在住の松村美幸氏と“福岡ひとにやさしい介助を考える会”を立ち上げ、福岡県を始め、近隣県で体験会や3日間のコースを2人の時間の許す限り開催して参りました。やがて、NPO福祉用具ネットとの共催事業としてキネステ体験講座やベーシックコースやアドバンスコースを開催できる機会が多くなりました。今回はNPO福祉用具ネットと福岡県立大学様との共催事業として「援助力養成プログラム～ひとにやさしい介助技術講座～」を開催することになり、その講師を松村トレーナーと二人でお引き受けする機会をいただいたのでした。



このお話を聞いた時に嬉しかったのは、将来、医療や福祉を担う学生の皆さんに“ひとの動きに焦点を当てた介護技術”を紹介できる場を頂いたことでした。

2019年3月2日に開催した講座の様子と受講された学生さんの感想をご紹介します。

参加者は福岡県立大学の看護学部・人間社会学部の1～4年の学生（9割が看護学部）。テーマは“ひとにや

さしい介助技術～声かけ、タッチ、ひとの動きの支援に求められるやさしいケアを学ぶ～”でしたので、「ひとにやさしい」とはどういうことなのかをいくつかの視点で、学生さんと一緒に動きながら、それぞれで感じてもらえるように企画しました。

①コミュニケーション

②身体の使い方

③環境

の3つの視点で、それぞれ90分、間に休憩をいれながら10時30分から16時までの3コマを学んでいただきました。たくさん動いて、感じて頂きました。最初はやや緊張した雰囲気でしたが、時間が経つにつれ皆さんの表情、声や動きにも活気がみられるようになりました。また、大学生への体験会は初めてで、皆さんの礼儀正しさには、社会人として見習いたいと思う場面も多くありました。



最後には、受講証明書を授与致しました。

◆学生さんの感想をご紹介します◆

・今までは、相手にも自分にも負担がかかっていて、空間とか、力の方向とか考えずにやっていたのだと感じました。コミュニケーションとか身体の使い方とか、環境を調整することで、やさしいケアができるということが、体験を通してわかりました。今まで習ったやり方とは全く異なっていて、とても面白く新たな発見をすることができました。

・普段は無意識に行っている寝返りや起き上がり等をする際に使っている筋肉や骨について考え、どうしたら介助する方もされる方も快適に動かせるかについて学べて良かった。個々に合った空間や時間、力などを組み合わせて骨に添うように体位変換することがコツだと学んだ。実習の時に実践したり、友人に伝えたりしたいと思う。ありがとうございました。わかりやすかったです!!

体験会を終えて…

対象となる学生さんは若くて筋力があるので伝わりにくいのでは…と思っていましたが、体験後の皆さんの動きの変化には驚きました。動きがとてもやさしくなっていたのです。これは、私にとっても貴重な体験でした。このような機会を頂きました福岡県立大学看護学部の松浦教授に心より感謝申し上げます。

キネステイクス®

ベーシックコース&アドバンスコースを学んで

2019年1月26日(土)、27日(日)、2月9日(土)の3日間にわたって本講座が開催されました。毎回、9:00~17:30という長時間の講座でしたが皆さん、笑顔に満ち溢れた楽しく充実した3日間だったようです。受講者の皆さん講師の先生方、大変お疲れ様でした。

受講者数名に以下のような質問をしました。皆さんからのコメントをご紹介します。

1. 受講したコース
2. 今回のキネステイクス技術のコースを学んで、最も、心に残ったポイントはどんなことでしょうか？
3. 現場に戻り、仕事の中で何か役にたったこと、介助等で楽になったことがありますか？それは具体的にどんなことですか。
4. 現在行っている「抱え上げない介護」の技術を理解するのに役にたったことがありますか？

岩本幸子さん (理学療法士)

1. ベーシックコース
2. 言葉や視覚からの指示が伝わっていないように見える対象者の方でも、キネステイク感覚から伝わっているかもしれない、伝え続けることが動きを引き出すことに繋がるかもしれない・・・なんだかワクワクします。
3. 相手を動かす、というよりも、一緒に動くことを意識するようにしたら、より動きが伝わり易くなったようです。自分の動きも、スパイラルを意識する事で、無理な緊張を減らせるようにしています。これが、健康な身体作りに繋がるというのは素晴らしいです。
4. 重さの移動、マスの動きをとなりのマスに伝える、その方向など、より理解できました。スパイラルに動かすと楽に動ける感覚がより理解できました。

粕谷千鶴さん (看護師)

1. ベーシックコース
2. 感覚の大切さ
3. 一人で立ち上がれない方の立ち上がりの介助をするときに、背中をなで上げるだけで上手に立って下さる方が何人もいた。今までは介助者の両腕をつかんでもらって「うんしょ」という感じでしか立てないと思っていたのに・・・
4. 「重さを移す」という事が初めて体感できた気がした。

財前篤子さん (作業療法士)

1. アドバンスコース
2. 一番心に残ったのは、トレーナーの接触と誘導がとても自然に感じられたことです。理解を助けるために概念を用いると同時に、体験を重ね、考えすぎずに動くことが大切だということを学びました。
3. 役に立っていると思います。たとえば、“マス”と“スペース”の役割、“整える動き”と“運ぶ動き”の違いを意識することで、ギャッジアップ座位での食事姿勢を整える時に、飲み込む動作を邪魔しないポジションニング(頸部)が可能になってきていると思います。
4. 役に立っていると思います。
 - ・重さを“マス”のひとつずつに移していく
 - ・“運ぶ動き”と“整える動き”の役割の違い
 - ・“歩く”と“飛ぶ”の違い等々
 - ・これらの概念を(体験を通して)学んだことが、「抱え上げない介護」技術を学び理解する手助けになっていると思います。



山内鈴代さん（看護師）

1. ベーシックコース
2. マスとスペースの考え方から、「重さをうけているマスで体位を考える」ことです。リクライニング車椅子の体位を「座位」と思っていたが本当は仰臥位でした。このことで、日頃のケアで、臥床を促すために、リクライニング車椅子に起こすということが、「寝かせている」と同じだとハッとしました。
3. ポジショニングの考えで、側臥位として背中に枕を入れているのは、臥位の状態であるとわかった。重さがどこにあるのか確認すること、確認は、見る方向で感じるところが違うので、触れて確認する重要性が理解できた。マスとスペースや骨と筋肉の考え方を取り入れ、拘縮している患者さんのポジショニングを考えています。
4. 身体の移動の仕方。重さを移す方向が理解できた。

塚原大和さん（理学療法士）

1. ベーシックコース
2. 人の身体の動きは、今まで自分なりに考えていたより何倍も奥深く、面白いものだった。
3. ①特に、一つの決まった答えがあるわけではなく、あらゆるツールを使って、いかようにも答えがだせることが面白かった。
②対象者の身体の動きについてより細部まで注目するようになった。
③起居動作などの動きのアドバイスのパターンが増えた。
④自分自身の、対象者に対する声かけや触れ方がより注意深くなり、より丁寧に行うようになった。
⑤対象者の身体の動きを誘導する際、いろんな方向を試すという考えが身につき、よりスムーズな誘導ができるようになった。
⑥介助時の自分自身の身体の使い方もより理解が深まり、介助がより楽になった。
4. ①身体の各部位の重さの流れの理解がしやすくなり、誘導しやすくなった。
②今まで自分自身が人に伝えるときに、型にはめて伝えようとしていたことに気づいた。視野が広がり、根拠立てしやすくなったことで、説明に自信がもてるようになった。

中尾三枝子さん（介護福祉士）

1. アドバンスコース
2. 活動や状況、動きの性質などを考える中でグループワークをする事により、一緒に考える事で自分では思いつかないような多様な発想があり、知識が広がったような気がした事。
また、ベーシックを受けて間違った解釈をしていた概念を修正する事ができ、自身の動きが楽になった事。
概念を理解する事は言葉で説明する事よりも身体が覚えて自然に動きを習得する事が大事だと言われた事。
3. ①自分自身の身体の使い方が変わった事。
体重のかけ方、姿勢の保ち方など『基本体位』を日常的に繰り返す事で体が軽くなって腰痛が軽減したように思う。
②実際にケアの際に児の動きを基本体位に合わせて一緒に動く事で両者に負荷の無い動作が取れるようになった事。
4. ①人間本来の機能の概念を理解する事で『抱え上げない介護』の技術に対する説明の道義付けに役だっていると思う。
②骨と筋肉を使って重さを移動させること。また自分自身の体重移動によって不良姿勢を作らない事。
③コミュニケーションの取り方、環境の作り方など常に相手と自身の動きの事を考えるようになった事。



ベーシックコース修了者の皆様



アドバンスコース修了者の皆様

事務局だより

＜31年1月から3月までの事務局のうごき＞

平成30年12月つき

- 12月19日 開発相談
- 12月20日 開発支援2件
- 12月23日 西日本新聞取材
『抱え上げない介護技術』学習会③

平成31年1月

1月2日 情報誌ささえ66号発送

- 1月7日 開発相談
- 1月8日 開発相談
- 1月9日 開発相談
- 1月11日 開発相談
- 1月12日 佐賀出前講座 キネステ体験会
- 1月13日 『抱え上げない介護技術』学習会④
- 1月15日 開発相談
- 1月16日 開発相談3件
- 1月21日 開発相談 事例相談
- 1月22日 事例相談
- 1月23日～24日 開発相談
- 1月24日 開発相談 事例相談
- 1月26日・27日

キネステティクス®ベーシックコース
キネステティクス®アドバンスコース

- 1月28日 事例相談
- 1月30日 開発相談

平成31年2月

- 2月2日～3日 開発支援
- 2月3日 『抱え上げない介護技術』補習⑤
- 2月4日 開発相談
- 2月5日 開発相談3件
- 2月6日 開発相談他2件
- 2月7日 開発相談
- 2月8日 施設検証
- 2月9日 キネステ研修会
キネステティクス®ベーシックコース
キネステティクス®アドバンスコース
- 2月14日 開発相談2件
- 2月15日 施設検証
- 2月16日 メンタルヘルス学習会②
- 2月17日 『抱え上げない介護技術』補習⑥
- 2月19日 開発相談
- 2月22日 開発相談
- 2月23日 開発相談
- 2月24日～25日 開発相談
- 2月26日 開発相談
- 2月27日 施設ヒヤリング2か所 開発相談

平成31年3月

- 情報誌企画準備 委託事業まとめ
- 3月2日 福岡県立大学援助力養成プログラム

ひとにやさしい介護技術3コマ

- 3月4日 委託事業相談
- 3月8日 事業報告書提出 福岡県庁
開発相談
- 3月9日 チェッカー打ち合わせ
- 3月10日 『抱え上げない介護技術』学習会⑦
- 3月17日 熊本出前講座 キネステ体験会
- 3月24日 『抱え上げない介護技術』学習会⑧
- 3月30日 チェッカー打ち合わせ
- 3月31日 『抱え上げない介護技術』補習⑨

情報誌ささえ67号 編集・校正・印刷・発送

＜今後の予定4月から7月まで＞

4月情報誌ささえ67号発行・発送

- 4月13日 『抱え上げない介護技術』補習⑩
- 4月14日 『抱え上げない介護技術』補習⑪
- 4月27日 会場設営と補習研修⑫
- 4月28日 下元佳子氏特別講演 10時～12時
- 4月28日 技術認定チェック 13時～20時
- 4月29日 技術認定チェック 9時～16時
- 5月25日 通常総会 14時～
- 5月26日 キネステ体験講座 10時～12時30分
- 6月9日 技術研修会 第1ステップ 1回目
- 6月16日 リーダーシップとコミュニケーション
- 7月7日 技術研修会 第1ステップ 2回目
- 7月20日 キネステティクス®研修会
ベーシック・アドバンスコース 1日目

『抱え上げない介護技術』等の研修会情報は、ホームページの研修会コーナーに掲載しています。

2019年度通常総会のご案内

日時 2019年5月25日14時～開始

会場 福岡県立大学附属研究所中セミナー室

◆審議事項

- 2018年度 事業報告・決算報告
- 2019年度 事業計画案・予算案
- 出欠届及び欠席の方は委任状の提出を5月18日までに提出していただきますようお願い致します。

2019年度新規会員募集・会員継続のお願い

NPO 福祉用具ネットの活動に賛同して下さる会員様を募集しています。

また、現会員の皆様は、2019年度の会員更新手続きをお願い致します。年会費の振込も4月末までお願い致します。

新規会員の方の入会金・年会費

個人会員入会金 1,000円 年会費 4,000円
合計 5,000円

団体会員入会金 2,000円 年会費 30,000円
合計 32,000円

入会申込書はホームページより入手できます。